

第22回学術大会 一般演題

「発達障害への漢方薬の応用 —神田橋処方と次の一手—」

川口 哲 (島原こころのクリニック 院長)

抄 録

発達障害を持つ児童・成人は感受性の異常のために、僅かな刺激（光・音・寒暖差・気圧変化）や他者の些細な言動にも過敏に反応して、苦痛を経験・記憶してしまう。そして、その記憶の処理がうまくいかないことから、トラウマ経験となり、類似刺激で容易にフラッシュバックを起こし、行動パフォーマンスの低下を来してしまう。トラウマ処理の漢方薬として神田橋処方と呼ばれる桂枝加芍薬湯合四物湯がある。しかし、この処方で情緒不安を来す事もある。演者は神田橋処方に黄連解毒湯を加え、3歳の児童の癩癩（服がチカチカして着られない）、小学生の不登校（同級生の過干渉）を治療した。そして、某国立大学医学部在学中に精神科医師から「君はアスペルガーだから医師になるべきでない」と放校され、某私立大学医学部卒業後医師になった方の社会適応をサポートしている。漢方薬の特性と工夫について披瀝する。



発達障害への漢方薬の応用
— 神田橋処方と次の一手 —



島原こころのクリニック
川口 哲

緒言

- ①発達障害を持つ児童・成人は感受性の異常のために、僅かな刺激（光・音・寒暖差・気圧変化）や他者の些細な言動にも過敏に反応して、苦痛を経験する。
- ②経験の記憶の処理がうまくいかないことから、トラウマとなり、類似刺激で容易にフラッシュバック（タイムスリップ）を起こし、行動パフォーマンスの低下を来す。
- ③トラウマ処理の漢方薬として神田橋処方と呼ばれる桂枝加芍薬湯合四物湯がある。しかし、この処方では情緒不安を来す事もある。

発達障害の治療（杉山登志郎）

- ①知覚過敏を巡る問題
 - ②拘りへの抵触
 - ③誤学習による問題行動
 - ④学力とのミスマッチ
 - ⑤タイムスリップ（フラッシュバック）現象
 - ⑥併存症としての気分障害
- ⑤に対してはトラウマ処理という対処法である神田橋処方が有効
なお、成人・児童を問わず発達障害の患者は薬物に過敏性を抱えている（三好輝）

神田橋処方とは

- 神田橋條治先生（精神科診断面接のコツ等のシリーズの著者）が20年ほど前に提唱された、漢方処方。
- PTSDのトラウマを軽減し「過去は過去」にする処方と思われるが、神田橋先生ご自身はそこまで効果を言われてはいない。
- 基盤になる「桂枝加芍薬湯」は「傷寒論（後漢）」に、「四物湯」は「和剂局方（北宋）（原点の苜蓿膠艾湯は金匱要略：後漢）」に記載されている処方である。
- 考案された理由は不詳であるが、古典に先例はないと思われる。
- 神田橋処方は科研費による検証もなされている。



川口の変法

- 癲癇持ちの患児に対して黄連解毒湯を常用。
- 神田橋処方を服用中の患児の睡眠障害に黄連解毒湯を使用。
- 剣道をしている患児（高校生）から「四物湯は午前、黄連解毒湯は夜に飲みたい。四物湯を飲むと闘争心が湧く感じがするし、黄連解毒湯を飲むと闘争心が落ち着く」と言われた。
- その後、多くの患児（患者）に桂枝加芍薬湯をベースにして、朝に四物湯、夜に黄連解毒湯を処方し、著効例を得ている。
- 焦燥感が強い時には四物湯を減量・中止することもある。
- なお、「黄連解毒湯」は「外台秘要（唐）」に記載されている。
- クラシエの錠剤は1日量が18錠。
- 常用量の約20分の1から使用可能となるため、薬剤過敏な発達障害者に微調整が出来、使いやすい。

症例

3歳 男児

主訴 感覚過敏（服を着る時にぐずる）

興味がないものには取り組まない。初めての場所が苦手。

2歳頃から洋服がチクチクするのが苦手で癩癩を起こす。

1か月前から、体操服が着られない。ズボンを嫌がる。

首や脇腹のタグが苦手でタグをはずさないを着られない。

1年以上靴下を履いていない。冬も靴下を履かない。

園児帽はかぶるが、あごひもはつけない。

マジックテープの靴が履けない

夕日を「まぶしい」と言って嫌がる。

花火の音も苦手。

手が汚れるのを嫌がり、粘土遊びや糊を嫌う。

水遊びは好きだが、服が濡れると嫌がる。

母の抱っこ手の位置にこだわる。

ふとんの掛け方にもこだわる（足が出るのがイヤ）。

思い通りにならなければ、暴言を吐いたり、母を殴る。ギャーッと叫ぶ。

癩癩は5分程でおさまる。

園には「行きたくない」と言うことがあるが、30分ドライブさせて機嫌を取って連れて行く。

【面談の様子】

母が質問紙に回答していると、鉛筆を取り上げて殴り書き。

PSWが母と面談中は「（話を）やめて」「（絵本を）読んで」と訴える。

母が面談を続けると「バカ」「パパア」と暴言を吐き、母の胸元を何度もグーで殴った。

クラシエ桂枝加芍薬湯 0.5錠

クラシエ黄連解毒湯 0.5錠

朝夕食後

再診時には服がスムーズに着られるようになったと、連絡帳に記載される。

経過中に癩癩が再燃し、昼食後にも上記薬剤を追加

お昼寝から起きた時のグゼリがなくなると、連絡帳に記載された。

感覚過敏の治療薬として症例集積中。

5歳 男児

（パパ逃げて、殺されるよ！）

実母より虐待を受けている（児童相談所、警察介入している）。

保護的環境でも突然泣き出す（恐怖感に襲われる）。

寝つきは良いが、午後10時半、深夜1時半に怖い夢、おばけの夢で覚醒して大泣きする。

突然「ごめんなさい」といいながら、テーブルの下に潜り込む。

大きな音がすると、すぐに両手を頭にもっていき、

頭を庇おうとする。



本人の発言

- ・「お母さんが怒るから、ピアノの練習ちょー嫌い」
- ・「パパがいないと、ピアノ弾けない」
- ・「パパがおらん時、ママがめっちゃ叩く」
- ・「踏みつぶされる」
- ・「ママ、料理のとき『パパを包丁で刺すよ』と言ってた」
- ・「（父親に対して）ママに包丁で切られるよ！」
- ・「ママいるの？ 息苦しい」

3歳 男児

（ママを逮捕して！！）

実母からDVを受けている（児童相談所、警察介入）。

不安、恐怖感で突然泣き出す。

登園泣り。

夜中、寝ている時に突然泣き出す

診察時に「ママを逮捕して」と訴える。



桂枝加芍薬湯 (傷寒論)

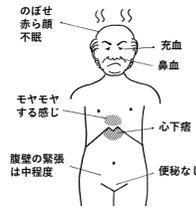


診断のポイント

- ・腹痛、虚満
- ・腹皮拘急
- ・下痢、裏急後重

処方	芍薬(芍薬)	6.0g	甘草(甘草)	2.0g
	桂枝(桂枝)	4.0g	生姜(生姜)	1.0g
	大枣(大枣)	4.0g		

黄連解毒湯 (外台秘要)



診断のポイント

- ・イライラ、不眠
- ・胸からみぞおちのつかえ(心下痞、心中煩)
- ・のぼせ症(耳鳴、頭痛、鼻血)

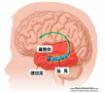
処方	黄连(黄连)	2.0g	黄芩(黄芩)	1.0g
	黄芩(黄芩)	3.0g	山梔子(山梔子)	2.0g

「君はアスペルガーだから医師になるべきでない」と言われた医師の述懐

- 某国立大学医学部在学中に精神科教授から「君はアスペルガーだから医師になるべきでない」と放校され、某私立大学医学部卒業後医師になり、長崎に在留。
- ・長崎の精霊流しの爆竹に腹が立つ。
 - ・花火大会の爆音も動悸がする。
 - ・黄連解毒湯を毎食後、就寝前に服用して鎮静
 - ・四物湯を飲んだ時に過去の嫌な記憶が浮かび上がり、道路に飛び出して大声で叫んだ。

記憶の処理行程・構造(笑い話に時が変える)

- ・体験を海馬で記録する。
 - ・その時に生じた情緒(喜怒哀楽)も海馬で記録される。
 - ・海馬に記録された体験・情緒は、海馬で再生された場合はリアルタイムのものとして生体に感知される。
 - ・海馬における神経新生の作用により、体験・情緒とも大脳皮質へ移行する(約30日)。
 - ・大脳皮質に移行した体験・情緒は「過去の出来事」として客観視が出来るようになる。
- 「苦労はしても、笑い話に時が変えるよ、心配いらないと、笑った」



フラッシュバック(タイムスリップ)の機序仮説

- ・甚大な衝撃(大災害・戦災・殺されそうになる・殺人現場への遭遇・被虐待・レイプ・泥棒との遭遇等)の体験は、記憶の処理行程に障害を来し、海馬に記録された体験・情緒が大脳皮質に「過去の記憶」として移行されにくいのではないか。
- ・そのため、時間が経過しても海馬に蠢き続けている。
- ・その蠢きが些細な契機で出現・暴走することがフラッシュバック・タイムスリップと考えられる。

神田橋処方(桂枝加芍薬湯合四物湯)と黄連解毒湯

- ①発達障害に伴う感覚過敏に対しては、桂枝加芍薬湯と黄連解毒湯を少量投与で対応し、嫌な「過去」の経験を減少させる。
- ②トラウマ化し、海馬にこびりついた「過去」は四物湯で剥がす。
- ③剥がされた「過去」を、そのままにしておくとして暴走する。桂枝加芍薬湯で大脳に運び「アルバム」に保存。
- ④大脳までの運搬中の「過去」に対して過敏な反応を起こさないために、黄連解毒湯でガードする。
- ⑤過敏性があるため、薬剤は少量から始める。1日量が18錠の漢方製剤は、加減しやすい。
- ⑥特にこびりついた「過去」を運搬能力以上にはがすと暴走するので、四物湯の容量は注意を要す。



第22回学術大会 一般演題

「自殺予防上の観点から、いわゆる「自殺の名所」の使用について
— 日光・華厳の滝の自殺をとおして —

里村 淳 (みずほ台病院心療内科)

抄 録

自殺が多発する場所は「自殺の名所」と言われることが多い。とくに景勝地においてその傾向が強い。しかし、自殺の名所についての明確な定義はない。今日では、東尋坊、富士の樹海などが自殺の名所として知られているが、景勝地での自殺が世に知られるようになったのは、日光の華厳の滝が最初とされている。明治36年5月22日、旧制一高生の藤村操が華厳の滝に投身自殺し、そのことが新聞報道されると大反響を呼び、全国から自殺志願者が殺到し、華厳の滝への投身自殺が連鎖した。華厳の滝での自殺は前年の明治35年にもあり新聞報道もされているが、その時は注目を集めることはなかった。藤村の自殺が注目をあびた原因は、滝口のそばの檜の木に残された「巖頭之感」と題する辞世の句が報道されたことによる。その辞世の句の内容に共鳴した人が次から次へと華厳の滝を訪れただけでなく、当時の文壇への影響は計り知れないほど大きく、藤村に関する文献はおどろくほど多い。そして、華厳の滝は自殺の名所として定着した。最近では、華厳の滝での投身自殺は激減したが、なくなったわけではない。しかし文壇での関心はいまだに続いており、事件から100年以上経ったいまでも藤村に関する論文、単行本の発刊がみられる。

明治期以来、景勝地で自殺が多発した場所、つまり自殺の名所として知られているものは数多くみられるが、今日では忘れ去られ自殺はなくなったところもある。その代表は、神戸市須磨(1928年)、神奈川県大磯町の「坂田山心中事件」(1932年)、伊豆大島・三原山火口への投身自殺(1936年)などである。

藤村の自殺の動機は、巖頭之感にみられるように、人生上の悩み、それも哲学的な悩みとれされており、これまでにない自殺のタイプであり「哲学的自殺」と呼ばれた。藤村の自殺は当時のエリート青年の心情が反映されたものとされ、それが当時、おなじ人生上の悩みを抱えている青年たちの共感をあつめたものとされている。急激な近代化の波にさらされその影響を強く受けた青年の自殺であり、また、当時の代表的な神経症的パーソナリティ者の自殺でもあり、森田正馬が独自で考案した精神療法である、森田療法を打ち立てる過程で診ていた患者にあたると思われる。

事件後に「巖頭之感」と滝と操の写真を載せた絵葉書が発売され飛ぶように売れたが、まもなく発売禁止になった。しかし戦後、ほぼ同じ体裁の写真が販売されるようになり、今日でもかなりの数が売れていると言う。また、いまだに華厳の滝で投身自殺をはかる若者がいることは、「自殺の名所」のなせるわざではないだろうか。

華厳の滝の自殺はこれまで、文壇からの関心ばかりで自殺予防の観点から取り組んだものはないと言ってよい。自殺の多発地帯を「自殺の名所」と呼称することは今日でも日常的に行われているが、自殺予防の観点からは好ましくないの、とくに報道機関や公の場所での使用は控えることを提唱する。